

## 教育の基礎的理解に関する科目等

### 「教育の課程と方法」の評価と改善

教育臨床・富田英司

#### 授業情報

授業名：教育の課程と方法

開講時期：令和5年前学期

時間割番号：120133

対象学生：初等・特支

担当：富田英司

受講者数：136名

DP 対応調査回答者数：19名

#### 授業概要

この報告書では、数年間に渡って、「教育の課程と方法」という授業を対象に継続的に検討をおこなってきた（なお、昨年度は、この報告書の提出を免除されたため、実施していない）。

今年度は、逆向き設計と概念型探究の手法を中心に学び、それらを活用した単元設計を教育実習と同じグループを構成して、協働で進めるという内容だった。

教育課程は教育の目的に応じて諸活動を配置する計画のことであり、教育方法は学習内容を教える方法に関するものである。この授業では理論と関連づけながら具体的な教え方と実際の方法を学ぶ。今回の報告では、昨年度に引き続き、この授業の評価と改善についてまとめた。

特にこの授業で育成を狙ったディプロマポリシーの項目としては、これまでと同じく「思考・判断・表現」を想定した。

#### DP 対応調査の結果

#### ① 評定値

DP 1-4 の項目に沿った授業かどうかに関する受講生の評定は以下の表に示すとおりであった。なお、評定値の凡例は1：とても思う、2：ある程度思う、3：あまりそう思わない、4：授業の目標・内容がこのDPとは無関係である、であった。この表には、「教育の課程と方法」の4年間に渡るDP調査の結果の変遷が分かるようにしてある。

今年度の回答者が19名と大変少ないため、これまでとの比較が難しいが、今回の傾向として過年度と異なると示唆されるのは、DP1 知識理解とDP4 興味関心意欲への評定が少し下がると同時に、DP2 技能とDP3 思考判断表現は以前と同様に高めであったことである。このことは、相対的にこの授業における技能と思考判断表現の要素を学生がより認識するようになったことを示していると言える。

逆向き設計と概念型探究という新しい枠組みを学び、そしてそれを活用しながら学習指導案を作成するという授業展開がその変化をもたらしたのだとすれば、望ましい変化だと言える。

#### ② 時間外学習等の状況

以下には、時間外学習時間等に関する4年間の変遷が示されている。今年度は特に大きく改善した項目はない。

- 時間外学習（課題）：週平均 1.16 時間（R3: 1.03, R2: 1.3, R1:1.5）
- 時間外学習（課題外）：週平均 0.37 時間（R3:

- 0.32, R2: 0.5, R1:0.8)
- 自主的に読んだ文献数:週平均 0.68 点 (R3: 0.6, R2: 1.0, R1: 0.3)

- 授業をきっかけとした活動:平均 0.05 点 (R3: 0.2, R2: 0.2, R1: 0.1)

表 「教育の課程と方法」の3年間に渡る DP 調査の結果

| 評定 | DP1:知識理解    |             |             |             | DP2:技能      |             |             |             | DP3:思考判断表現  |             |             |             | DP4:興味関心意欲  |             |             |            |
|----|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|
|    | R元          | R2          | R3          | R5          | R元          | R2          | R3          | R5          | R元          | R2          | R3          | R5          | R元          | R2          | R3          | R5         |
| 1  | 46<br>(42%) | 73<br>(56%) | 20<br>(22%) | 5<br>(26%)  | 32<br>(29%) | 36<br>(27%) | 14<br>(15%) | 3<br>(16%)  | 35<br>(32%) | 63<br>(48%) | 21<br>(23%) | 4<br>(21%)  | 36<br>(33%) | 66<br>(50%) | 22<br>(24%) | 6<br>(32%) |
| 2  | 60<br>(55%) | 56<br>(43%) | 68<br>(74%) | 11<br>(58%) | 64<br>(58%) | 85<br>(65%) | 69<br>(75%) | 14<br>(74%) | 72<br>(65%) | 65<br>(50%) | 65<br>(71%) | 11<br>(42%) | 65<br>(59%) | 62<br>(47%) | 65<br>(71%) | 8<br>(42%) |
| 3  | 4<br>(4%)   | 1<br>(1%)   | 4<br>(4%)   | 3<br>(16%)  | 13<br>(12%) | 9<br>(7%)   | 8<br>(9%)   | 2<br>(11%)  | 3<br>(3%)   | 2<br>(2%)   | 6<br>(7%)   | 4<br>(%)    | 8<br>(7%)   | 3<br>(2%)   | 5<br>(5%)   | 4<br>(21%) |
| 4  | 0<br>(0%)   | 0<br>(0%)   | 0<br>(0%)   | 0<br>(0%)   | 1<br>(1%)   | 1<br>(1%)   | 1<br>(1%)   | 0<br>(0%)   | 0<br>(0%)   | 0<br>(0%)   | 0<br>(0%)   | 0<br>(0%)   | 1<br>(1%)   | 0<br>(0%)   | 0<br>(0%)   | 1<br>(5%)  |

### ③ 自由記述

今年度の調査フォームには、自由記述欄にて、今後の授業改善のための意見を求めている。次年度の調査ではその項目を含めるようにしたい。

#### 来年度に向けた授業改善について

今年度の取り組みでは、はじめて本格的に概念型探究の枠組みに従った授業設計に、受講生がグループで取り組んだ。しかし、授業のなかで十分に鍵概念が理解できていない場合も散見されたため、より適切な理解のための足場づくりとして、クイズやワークをより増やしたいと考えている。

また、グループごとに好きなテーマで単元を考案することになると、授業者がそれぞれの授業のねらいや観点を理解するために時間を要する。そのため、こちらで用意した単元テーマの範囲で、受講生に授業設計をおこなってもらうことで、効率よく指導ができるかもしれない。ただ、その場合、学生の動機づけが下がる可能性もあるため、現在方向性を検討中である。